

「安全」「安心」を両輪とした がん専門薬剤師の通院治療室における取組み

新潟大学医歯学総合病院 薬剤部

2014年度診療報酬改定での「がん患者指導管理料3」新設にみられるように、がん領域における専門・認定薬剤師の活躍が注目されています。新潟大学医歯学総合病院では、がん専門薬剤師を通院治療室に配置し、がん化学療法施行確定後の最終鑑査や、患者面談を通じた支持療法の提案など、「安全」「安心」を両輪に意欲的な活動を展開しています。通院治療室における専門薬剤師としての取組みについてお話を伺いました。

薬剤部の方針をお聞かせください。

外山 「安全」で、なおかつ患者さんに「安心」と感じてもらえる医療の提供を目指しています。

薬剤師の業務は、薬物療法の「安全」を確保することが主体となります。このような業務は、充足して当然の「当たり前品質」で、正しく行われないと「安全」が即座に脅かされます。当薬剤部では、「当たり前品質」の業務を正しく行い、それに加え「魅力的品質」といえる、患者さんをサポートする業務の充実を図っています。患者さんが納得した上で「安心」して治療を受けられるように、職業やライフステージなどの生活面も考慮しながら幅広い支援に努めています。



薬剤部長
とやま あきひろ
外山 聡 先生

通院治療室に薬剤師を配置された経緯と業務体制をお教えてください。

外山 2006年11月に通院治療室(16床)が設置され、2008年4月より薬剤師を配置しています。

写真 通院治療室



通院治療室に隣接して無菌調製室を設置。両室間には広く窓を設け、患者さんと調製者が互いの姿を見られるようになっています。その主な目的は、次の二つです。
① 調製者が、薬剤という「モノ」の先にいる患者さんという「人」の存在を意識し、安全な調製につなげる。
② 患者さん自身に薬剤調製を見てもらい、安心していただくこと。

当初、外来化学療法の対象は消化器外科と乳腺外科の患者さんのみでしたが、徐々に領域を拡大し、現在は、ほぼ全ての診療科に対応しています。調製業務だけでなく、がん専門薬剤師を含む2名が交代で、毎日患者さんの指導を行っています。

通院治療室の業務では、どのようなことを重視されていますか。

坂井 がんは多種多様であり、ステージも異なる患者さんを対象にしているため、がんに関する幅広い知識が要求されます。がん専門薬剤師として得た知識に基づき、安全な薬物治療の提供に努めています。また同時に、限られた時間の中で、患者さんが治療を理解し、安心していただける説明をするよう心がけています。

安全への取組み ①

医師の診察前の支持療法提案

「安全」を確保するためには、薬剤師の視点で患者さんを詳細にみて、迅速に対応することが重要です。当院では、医師の診察前に薬剤師が介入し、副作用の報告のみならず、併せて支持療法の提案をすることで、安全かつ効率的な薬物治療を実施しています(図表)。

また、点滴中も看護師と薬剤師が患者さんの状態を確認し、必要であれば医師に電話連絡して処方提案を行っています。

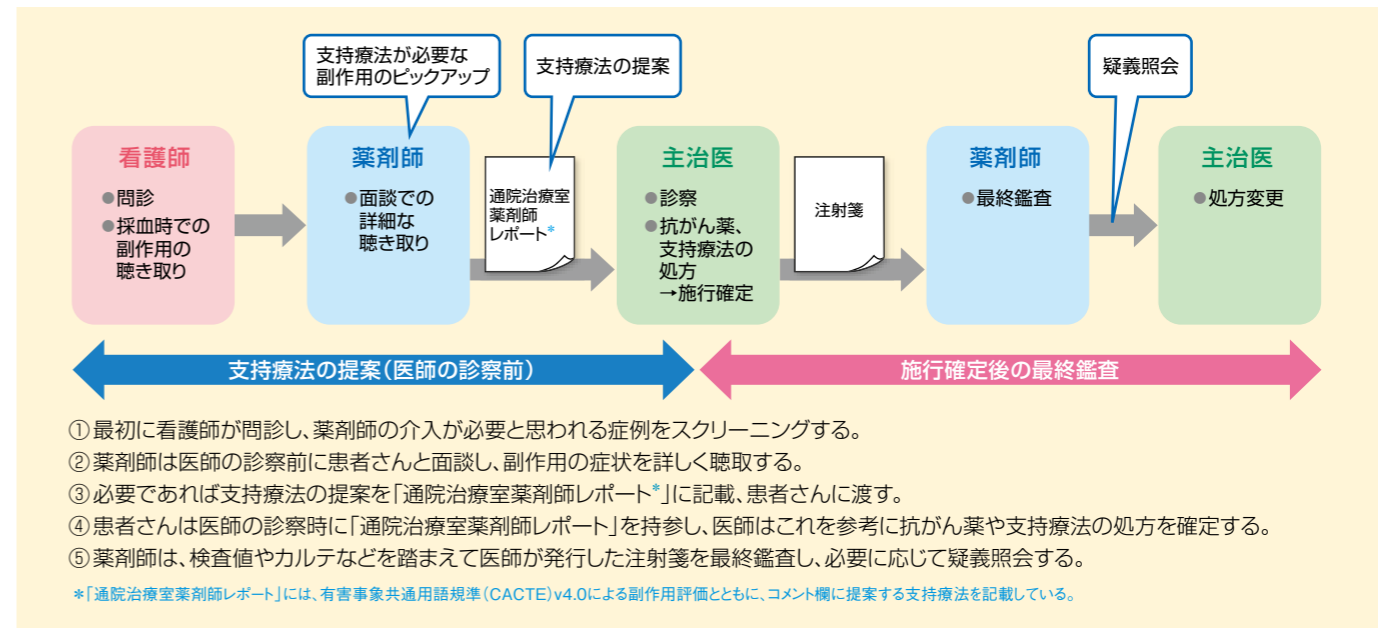
支持療法提案の一例ですが、むくみの原因として抗がん薬の副作用が疑われた事例がありました。薬歴の精査により、漢方薬の多剤併用が原因のひとつと推定し、減薬を提案したところ改善しました。支持療法では、症状改善のために薬剤を「足し算」しがちですが、抗がん薬以外の薬剤も幅広く見渡し、「引き算」の視点でも考察できることは、薬剤師ならではの職能ではないかと思えます。

安全への取組み ②

医師による施行確定後の最終鑑査

レジメン審査や処方鑑査における安全性の担保は、多く

図表 通院治療室における薬剤師の業務の流れ(支持療法の提案から最終鑑査まで)



の施設で、薬剤師が担うべき役割になってきています。

加えて当院では、より安全な医療を提供するために、通常の処方鑑査のみならず、医師による施行確定後にも、腎機能などの検査値や内服抗がん薬の処方の有無、休薬期間などを踏まえて薬剤師が最終鑑査を行っています(図表)。

2010年4月～2013年3月に行った調査では、医師による施行確定後に656件の疑義照会を行い、変更となった割合は約34%、うち約10%が投与中止でした。変更理由では、内服抗がん薬の処方忘れ、休薬、検査値、相互作用に関するものが多くみられました。

この調査では、最終鑑査の実施が過量投与や相互作用などの防止につながり、「安全」に貢献していることを示せたと思います。

「安心」への取組み

坂井 患者さんの面談では、専門的知識を単に伝えるのではなく、記憶に残る説明を心がけています。そのためには、患者さんの表情を注視しながら心配事を探り、同時に理解度を見極めることが大切です。

患者さんに安心していただくためには、まず、個々の患者さんが抱える悩みや不安を引き出す必要があります。“もし自分だったら”と考え、わずかでも不安を抱えたまま帰宅されることのないよう配慮しています。

患者さんへの説明後、「何が質問はありますか」と聞いて「ありません」と答えが返ってきたら、理解されていない場合もあるので、別角度からの質問や説明を試みます。丁寧に説明した後、患者さんの表情が明らかに変化することがあります。

そのような姿を目にしたときは、薬剤師として充実感を覚えます。

がん専門薬剤師としての今後の抱負、専門薬剤師への期待をお聞かせください。

坂井 がん化学療法に精通した若手薬剤師の育成も、がん専門薬剤師の重要な役割の一つです。自ら考え、答えを導き出す力を個々の薬剤師が養えるようサポートしていきたいと思えます。

それと同時に、支持療法の提案や最終鑑査といった取組みを分析し、患者さんへの貢献度を評価することも今後のテーマです。分析結果を基にエビデンスを集積し、これまで行ってきた通院治療室での取組みの有用性を示していきたいと考えています。このような調査・研究は、今後がん領域の専門・認定薬剤師を目指す人のモチベーション向上にもつながると思います。

外山 薬剤師が「魅力的品質」の業務を遂行するには、スペシャリティを持つことが大切です。しかし、最終的にはハイレベルなジェネラリストでなければならないと考えています。

最初の目標がジェネラリストかスペシャリストか、人によって異なりますが、いずれにしても、最終的には広範な領域で高い水準の知識や技術を備えることが求められます。各薬剤師の資質に合わせ、「魅力的品質」の業務で幅広く力を発揮できるよう、支援していきたいと思えます。

新潟大学医歯学総合病院
新潟県新潟市
中央区旭町通1-754
●病床数:825床
●薬剤師数:52名



<2016年1月現在>